三浦 義光 議員

無会派

問 農福連携推進への関わり方は

答 近隣市町村の動向を注視する

○近年、「農福連携」と呼ばれる農業サイドと福祉サイドが連携して、障がい者の働く場を農業分野で作ろうとする取組が注目されている。市内の現状について以下を問う。

問 市内の就労系障がい福祉サービス事業所数は。

答 健康福祉部長　就労移行支援事業所1か所。就労継続支援A型事業所1か所。就労継続支援B型事業所7か所。

問 連携活動の事例は。

答 建設部長　就労継続支援B型事業所が4月に1か所開設したことを把握。

問 市独自の行政支援は。

答 今のところ考えていない。

▲農福連携の様子

問 マッチング支援の窓口創設を。

答 農業事業者と福祉サービス事業者の意向を把握した上で、近隣市町村の動向も注視し考える。

問 市長の考える行政の役割とは。

答 市長　事業者の声を取りまとめ、お互いに良い農福連携ができればと思っている。

問 民生児童委員の活動は

答 コロナ禍で工夫を凝らし活動

○CMでも目にする、身近な相談相手の民生児童委員の活動について以下を問う。

問 行政においての担当所管は。

答 健康福祉部長　福祉課。

問 コロナ禍における活動の変化は。

答 あらゆる活動がコロナの影響で、中止・延期を余儀なくされた。

対面方式が取れず、電話、インターフォン等、非対面式による見守り。

川柳の募集案内・作品の受取訪問による見守りを一昨年から開始。

問 活動継続の協力体制は。

答 各地区民生児童委員協議会、定例会に参加し、情報交換・各種研修会を行っている。

問 市長との関わり方を含め総括を。

答 市長　定例会全体会に出席し、会長と情報交換を行っている。今後も委員との関係・連携を強化していく。

▲民生委員の受取による川柳作品展示